

令和7(2025)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
(研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)
(ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)」
実績報告書(プログラム実施報告書)

課題番号： 25HT0171				
プログラム名： 他者の絵を模写する				
所属 研究 機関	名称	国立大学法人 佐賀大学		
	機関の長 職・氏名	学長・野出 孝一		
実施 代表者	部局	芸術地域デザイン学部		
	職	准教授		
	氏名	近藤 恵介		
開催日	受講対象者	募集人数	当日の 参加者数	
令和7年8月26日 ～8月27日	<input type="checkbox"/> 小学校5年生 <input type="checkbox"/> 小学校6年生 <input type="checkbox"/> 中学校1年生 <input type="checkbox"/> 中学校2年生 <input type="checkbox"/> 中学校3年生 高校1年生 高校2年生 高校3年生	15人	7人	
実施場所	佐賀大学 本庄キャンパス			
プログラムの目的 絵画分野の研究(制作)に関心のある高校生が多くは、液晶タブレットなどのデジタルデバイスを使用して絵を描いている。また近年では、AIによる画像生成技術を利用して絵を描くケースも増えている。デジタルデバイスの普及が画家に要請するのは、「描く」という営為の根本的な問い直しである。このような状況において、古典技法の有限性を顧みることには大きな意義があるだろう。デジタルデバイスを通じての描画経験が当たり前となっている新世代の高校生が、古典技法を体験することで、新しい絵画表現の可能性を見出すことを目的とする。				

プログラムの実施の概要

【プログラムに関して留意、工夫した点】

(1) 講義

講義では、スライドやテキストを用いて、模写する作品への理解を促した。その過程で、作品に対する参加者自身の視点の発見を目標とするが、簡単な作業ではないため、実施代表者と協力者（研究室所属学生）が適宜助言をした。

(2) 作品制作

本プログラムの大きな特徴は、プロが使用する本格的な画材を使用する点にある。通常この手のワークショップでは、予算規模が小さいため代替の画材で済ますケースが多いのだが、助成を受けることで、参加者は本物に触れる機会を得ることができた。初めて日本画材に触れる参加者が大半であったため、実施代表者と協力者（研究室所属学生）がサポートをした。

また、実施代表者と協力者（研究室所属学生）とで、事前に参考作品を制作し、参加学生に示すことで、より具体的な指導に繋げることができた。

(3) 作品研究会

制作後には研究会を設けた。壁面に学生の描いた模写を展示し、他の参加者の作品と比較しながら、参加者、実施代表者、協力者（研究室所属学生）間で、ディスカッションをすることで、一歩踏み込んだ振り返りの機会となった。

【当日のスケジュール】

1日目（8/26）

- 9:30～10:00 受付（集合場所：佐賀大学（本庄キャンパス）芸術地域デザイン学部3号館）
- 10:00～10:30 挨拶（プログラムの説明、実施代表者の紹介、科研費について）
- 10:30～12:00 制作①「ドーサ引き（本紙・表）」
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～14:00 講義①「模写をすること」/ 上げ写しの説明
- 14:00～15:00 制作②「上げ写し」* 休憩は制作の進捗に合わせて適宜とること
- 15:30～15:45 休憩（クッキータイム）
- 15:45～17:30 制作③「上げ写し」
- 17:30～17:45 片付け
- 17:45～18:00 1日目の振り返り
- 18:00 解散

2日目（8/27）

- 9:30～10:00 受付（集合場所：佐賀大学（本庄キャンパス）芸術地域デザイン学部3号館）
- 10:00～12:00 制作④「糊作り、裏打ち、張り込み」
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～13:30 講義②「材料学」
- 13:30～15:45 制作⑤「彩色」* 休憩は制作の進捗に合わせて適宜とること
- 16:00～17:00 作品研究会
- 17:00～17:15 アンケート記入（クッキータイム）

17:15～17:30 まとめ

17:30 解散

【事務局との協力体制】

本学研究推進課の担当者による全面的なサポートにより、日本学術振興会との連絡・調整、予算等の確認、参加者の募集・受付などを円滑に進めることができた。

【広報活動】

本学 HP での情報掲載や、オープンキャンパス・ジョイントセミナーなどでの講義を交えた広報活動に加え、募集チラシを配布した。

【安全配慮】

基本的に危険な画材等は使用していない。また、実施代表者と協力者（研究室所属学生）とで連携し、受講生への気配り徹底することで危険防止を徹底した。

【受講生の感想（原文）】

- ・書道と似た点がたくさんあって、日本の文化として新しく知ることができてとても良い経験になりました。
- ・これからも日本画が好きなので沢山挑戦や、試行錯誤して楽しんで制作していきたいと思いました。
- ・今回初めて日本画を書いたのもそうだし、日本画についても今まではほとんど知らなかったけど、2日間を通して日本画について詳しく知れただけでなく体験できてとても楽しかったです。
- ・小林古径含めた日本画家の繊細さ、巧みさにおどろいた。
- ・今まで描いたことのない分野で、何故こうなる！？と古径さんへの尊敬と、疑問、描けないもどかしさ(?)を感じられて、とても貴重な体験だった。
- ・絵の具の発色や、色のまぜ方など、色んなことが知れて良かったです。
- ・奥が深くとても面白かったです。また挑戦したいと思いました。

【今後の発展性、課題】

古典技法に対する受講生のビビッドな反応が印象的であった。デジタルデバイスが当たり前となった今日において、古典技法に新鮮な魅力を見出す感性は、これからの絵画表現のあり方を考える際の重要な手がかりとなるのではないだろうか。

また、限られた時間のなかで日本画の模写を実施するためには工夫を要したものの、充実した内容を展開することができた。しかしその一方で、丸二日間を要する実施形態は、受講生の募集面での障壁となることも明らかになり（当日キャンセルが数名いた）、改善の余地が残された。

【実施の様子】



上げ写し



糊づくり



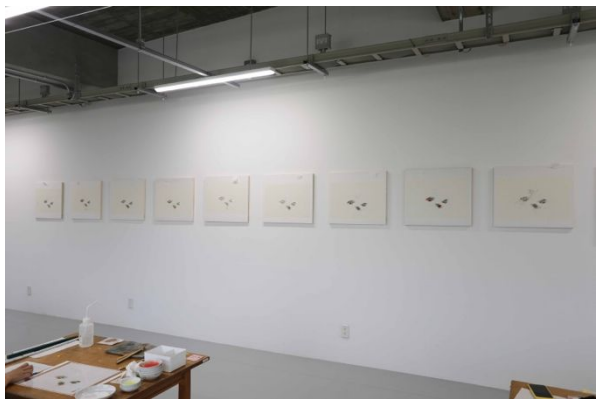
裏打ち



敷き干し



材料学



作品展示